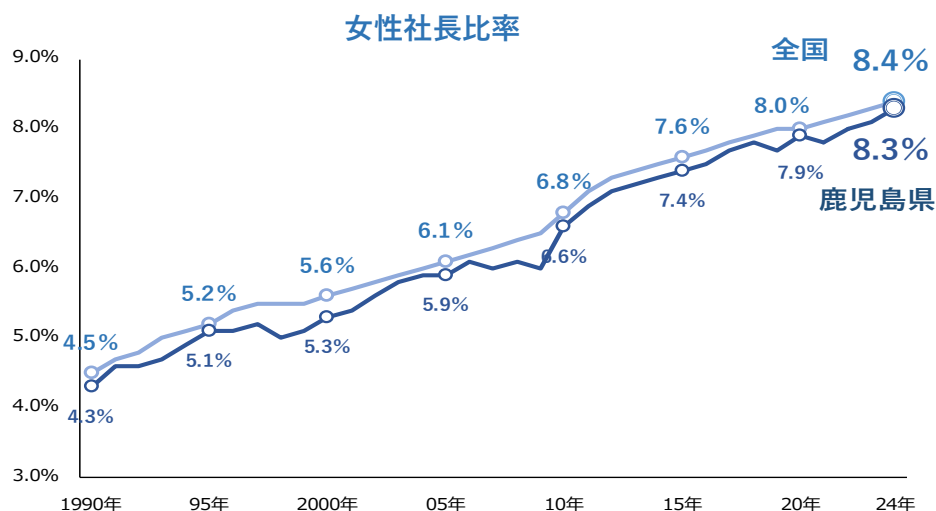


鹿児島県「女性社長」分析調査（2024 年）

県内企業の女性社長比率は 8.3 % 依然として低水準が続く

政府は“2020 年代の可能な限り早期”を目標とした「女性管理職 30%目標」に加えて、第 5 次男女共同参画基本計画では 2025 年までに「東証プライム市場上場企業の役員に占める女性の割合」を 19%とすることを目指している。その年限が刻々と迫ってくるなか、「女性版骨太の方針 2024」では次世代を担う女性リーダーの育成に焦点が当てられている。しかし、その一端となる女性管理職の平均割合はわずかに上昇しつつも低水準を脱しておらず、目標を達成できる見込みは現時点では立っていない。



調査結果（要旨）

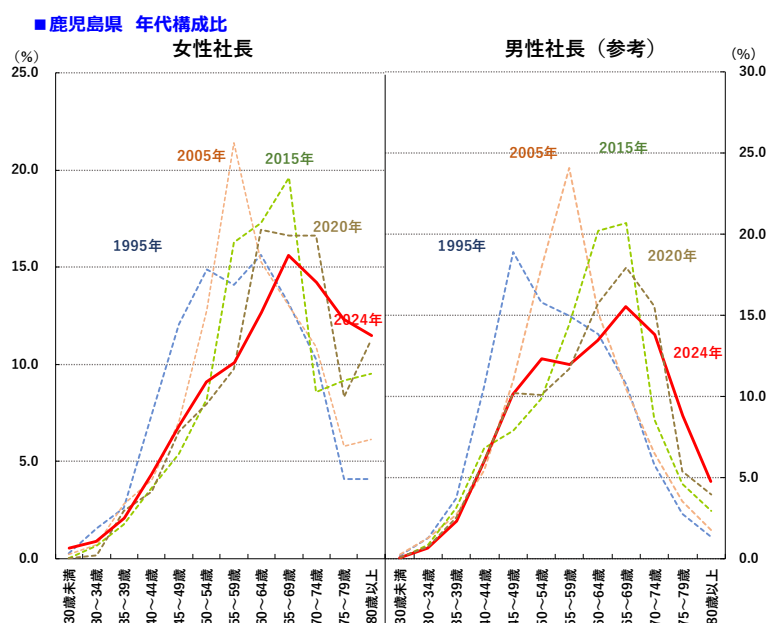
1. 鹿児島県内企業の女性社長割合は前年比で 0.2pt 上昇の 8.3%、過去最高ながら 10%に届かず。年代構成比では「65～69 歳」が 15.6%と最も高く、「30 歳未満」の若年層は 0.5%と最も低い。
2. 業種別では「不動産」が 17.6%でトップ。一方で「建設」(4.4%)、「製造」(6.5%)の両業種は依然として低水準となった。
3. 売上規模別では「5000 万円未満」が 11.7%となり最も高く、売上規模が上昇するほど低くなる傾向。
4. 出身大学別では「鹿児島純心女子短期大学」が 13 人で最多。

■集計対象は鹿児島県内の「株式会社」「有限会社」「合同会社」「合名会社」「合資会社」

1. 県内企業の女性社長比率は 8.3%、依然として低水準が続く

鹿児島県内企業の女性社長比率は、2024 年 10 月時点で 8.3% となり、前年の 8.1% を上回り 3 年連続で上昇を続け、過去最高を更新した。統計として遡れる 1990 年 (4.3%) から上昇を続けているものの、そのスピードは緩やかで未だ 1 ケタ台にとどまり、全国では 29 位 (1 位は徳島県 12.1%)、九州では最下位 (1 位は沖縄県 11.6%) となっている。

年代構成比でみると、「65～69 歳」が 15.6% で最も高かった。一方、「30 歳未満」は 0.5%、「30～34 歳」が 0.9% といずれも 1% 台を下回り、若年層ほど女性社長比率が低下する傾向にある。



年齢構成比

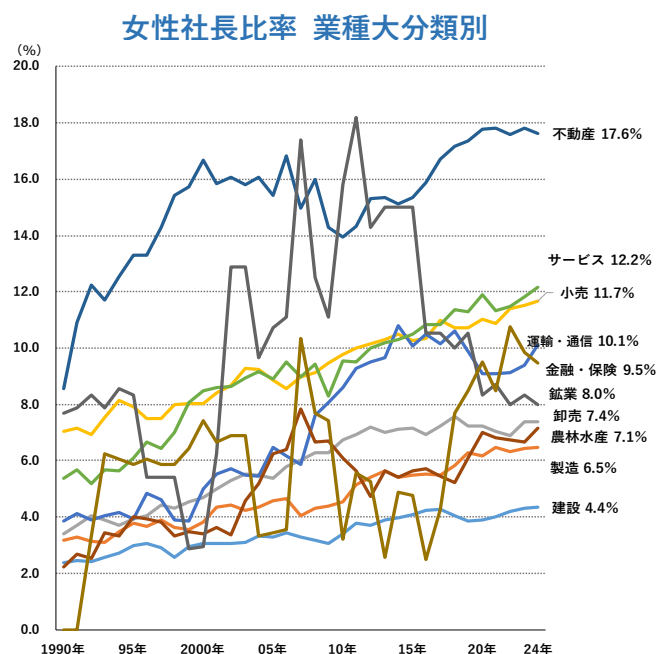
※単位は%、()は全国比

年代別	1995年	2005年	2015年	2020年	2024年
30歳未満	0.3 (△0.2)	0.2 (△0.2)	0.0 (△0.3)	0.0 (△0.2)	0.5 (+0.2)
30-34歳	1.5 (+0.0)	0.7 (△0.8)	0.6 (△0.5)	0.2 (△0.7)	0.9 (+0.0)
35-39歳	2.6 (△0.7)	2.8 (△0.1)	1.7 (△1.0)	2.4 (+0.0)	2.1 (△0.2)
40-44歳	7.4 (+1.6)	4.0 (△1.5)	3.6 (△1.9)	3.4 (△1.2)	4.3 (△0.3)
45-49歳	12.1 (△1.9)	7.0 (△0.6)	5.4 (△2.4)	6.5 (△1.6)	6.8 (△0.8)
50-54歳	14.9 (△0.4)	12.8 (+1.1)	8.2 (△2.4)	8.0 (△2.3)	9.1 (△2.3)
55-59歳	14.1 (△2.3)	21.4 (+1.4)	16.3 (+4.2)	9.8 (△2.8)	10.1 (△2.9)
60-64歳	15.6 (△0.1)	15.3 (△1.5)	17.2 (+2.6)	16.9 (+3.9)	12.7 (△0.9)
65-69歳	13.1 (+1.1)	13.0 (+0.2)	19.6 (+1.2)	16.6 (+2.9)	15.6 (+3.1)
70-74歳	10.3 (+2.2)	10.9 (+1.3)	8.5 (△3.2)	16.6 (+0.9)	14.2 (+2.1)
75-79歳	4.1 (+0.0)	5.8 (△0.5)	9.2 (+1.8)	8.3 (△0.8)	12.3 (+0.9)
80歳以上	4.1 (+0.8)	6.1 (+1.1)	9.5 (+1.7)	11.2 (+1.9)	11.5 (+1.2)

2. 業種別では「不動産」が 17.6%でトップ、「建設」「製造」は依然として低水準

業種別にみると、「不動産」が 17.6%でトップだった。続く「サービス」(12.2%)や「小売」(11.7%)といった「BtoC」業種を大きく引き離し、群を抜いて高い水準が続いている。

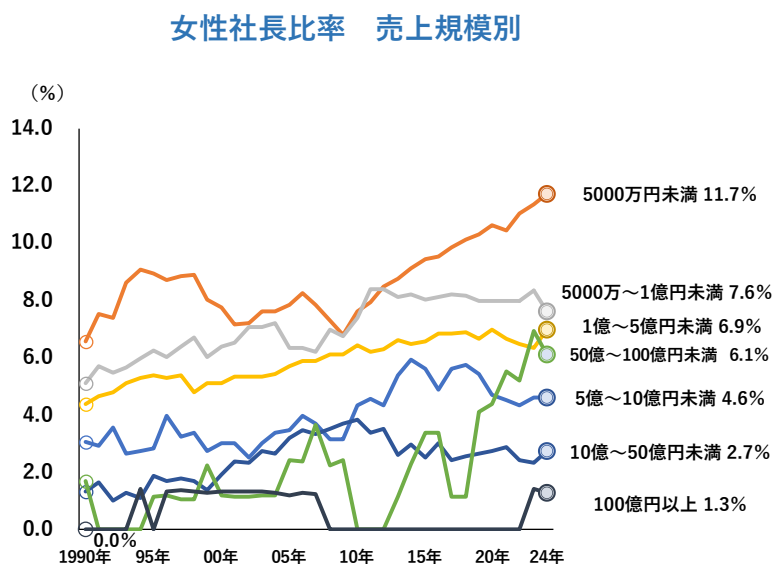
その他の 5 業種は全体 (8.3%) を下回った。なかでも「建設」は 4.4%と全業種のなかで最も低く、「製造」が 6.5%で続いた。



3. 「5000 万円未満」が 11.7%でトップ、売上規模に比例して女性社長比率は低下

売上規模別の女性社長比率をみると、「5000 万円未満」が 11.7%となり最も高かった。1990 年から 2024 年までの上昇幅(+5.1pt)でも最も大きかった。

その他、「5000 万～1 億円未満」(7.6%)、「1 億～5 億円未満」(6.9%)など、売上規模が上がるほど女性社長比率は低くなる傾向がみられた。なかでも、「100 億円以上」は 1.3%にとどまった。



4. 「鹿児島純心女子短期大学」出身の女性社長が最多

出身大学別でみると、「鹿児島純心女子短期大学」が 13 人(前年比横ばい)でトップ。次いで、「鹿児島大学」4 人(前年比横ばい)、「熊本大学」3 人(前年比横ばい)、「鹿児島女子短期大学」3 人(前年比 1 人減)が続いた。鹿児島県内の大学、短期大学を中心とした顔ぶれに変化はない。

女性社長社数 出身大学別

順位	大学名	(社)	前年比(社)	(社)				
1	鹿児島純心女子短期大学	13	±0	(13)	5	九州産業大学	2	±0 (2)
2	鹿児島大学	4	±0	(4)	12	長崎大学	1	±0 (1)
3	熊本大学	3	±0	(3)	12	福岡教育大学	1	±0 (1)
3	鹿児島女子短期大学	3	-1	(4)	12	同志社女子大学短期大学部	1	±0 (1)
5	大垣女子短期大学	2	±0	(2)	12	鹿児島国際大学短期大学部	1	±0 (1)
5	帝京短期大学	2	±0	(2)	12	佐賀女子短期大学	1	±0 (1)
5	青山学院女子短期大学	2	±0	(2)	12	純真短期大学	1	±0 (1)
5	東京純心大学	2	±0	(2)	12	九州産業大学造形短期大学	1	±0 (1)
5	鹿児島純心女子大学	2	±0	(2)	12	梅光学院大学女子短期大学	1	±0 (1)
5	第一薬科大学	2	±0	(2)	12	川崎医療短期大学	1	±0 (1)

※ () 内は2023年調査時点の人数

まとめ

2024 年の鹿児島県内企業の女性社長比率は 8.3%と 3 年連続の上昇で過去最高を更新したものの上昇幅は小さく、依然として 1 割を下回る低水準にとどまった。調査開始以降、段階的に上昇しているが、上昇幅は小幅であり、大幅な変動要因は見当たらないことから、こうした局面が今後も続くものとみられる。

いずれにしても女性管理職や役員の割合など、あらゆる期間目標が掲げられているなかで、政府は女性起業家の拡大にも注力している。2023 年 5 月に経済産業省が発表した「女性起業家支援パッケージ」においては、ネットワーク構築やマッチング機会の提供のみならず、ロールモデルの創出を目的に「J-Startup における女性起業家の割合 20%」を目指すことが明記された。J-Startup はグローバル展開を見据えるスタートアップ企業に対する育成支援プログラムであり、女性が挑戦できる機運の醸成を目指した目標となっている。

こうしたユニークな取り組みに加え、人材教育の面では科学技術系の分野に長けた STEM 人材の育成も注目されている。このような、今までは女性活躍が進んでいなかった分野への着手が数多くみられるものの、数値目標の達成を目的とした登用には注意が必要だ。女性活躍は、労働力不足の解消やダイバーシティ促進による経営改善などが主な目的であり、今後も女性社長や役員・管理職の割合は緩やかな上昇が見込まれるなか、適材適所の人材登用が求められる。

株式会社帝国データバンク 鹿児島支店 片平

【TEL】:099-223-8208

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。